

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月1日

事業ID:2024003333

事業名:愛知県名古屋市中村区における「子ども

団体名:特定非営利活動法人おひま

代表者名:理事長 池田 直樹 印

TEL:052-750-1802

事業完了日:2025年3月31日

■契約時

事業費総額	:	7,210,000 円
自己負担額	:	1,450,000 円
助成金額	:	5,760,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,678,978 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,918,978 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	5,760,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 愛知県名古屋市中村区における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日9時から19時まで開所) (2)場所:愛知県名古屋市中村区並木2丁目358番地 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に月15~20名、未就学児から高校生、近隣住民 (4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 愛知県名古屋市中村区における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日9時から19時まで開所) (2)場所:愛知県名古屋市中村区並木2丁目358番地 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に月5名の利用。未就学児から高校生、近隣住民30名程度利用。 (4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。
--

(3)成功したこととその要因

週5日開所を実施することができ、未就学児から大人の方、様々な方々が利用してくれた。

(4)失敗したこととその要因

問題を抱える子どもたちの利用が増やすことができなかった。見学は行ってくれるが、環境がにぎやかだったせいか敬遠されたようだ。

(5)事業内容詳細

愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- ・2025年3月31日までにの一日平均利用児童数を10名にする
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に10回実施する

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	256	文字数チェック	OK
①一日平均利用児童数は、10名とはいかなかったが、6名とすることができた。困難を抱えた子どもたちの繋がり、はやり単発で終わることが多く継続利用とはいかなかった。登録数は、順調に増えている。 ②多世代交流機会として、子どもマルシェ、スタッフ主体のマルシェを開催することができ、地域に住む小学生やその保護者、年齢の高い方まで集まってくれた。次年度も引き続き、継続したい活動である。 ③登山、子どもマルシェ、ゲーム大会、ハンドメイドなど、大きなイベントから小さなイベントまで、月1回程度開催することができた。			

3.事業実施によって得られた成果

マルシェを通して、新規の方の利用につなげることができた。 子育て広場では、ヨガ、マッサージ、無制限遊びなどのイベントを開催することができた。未就学児と保護者から、楽しく参加できましたなど、ポジティブなコメントを受けとることができた。 前年度同様、登山、子どもマルシェを開催することができた。活動を通して、子どもたちが自ら進んで挑戦する姿が見られ、また友達を助ける、年下の子どもたちへ声を掛けるなど、子どもたちに他人を気にかける、いたわる気持ちの芽生えがみられた。
--

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

利用している子どもたちが、固定化されてきているため、新規の利用者数の伸びが鈍化している。定期的にSNSや広告にて情報を発信し、新規獲得できるように進めていく。
--

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

●地域交流イベントチラシ版(A4 版、1000 部)、InstagramやLINE用電子広告版
●開催報告および写真(個人情報に配慮した上で法人サイト、Instagramに掲載)
●家族や地域向け小冊子(A3 版、500 部)ダウンロード可能な形で法人ウェブサイトに掲載



(2)事業完了時の成果物名称

●地域交流イベントチラシ版(A4 版、1000 部)、InstagramやLINE用電子広告版
●開催報告および写真(個人情報に配慮した上で法人サイト、Instagramに掲載)

(3)未作成となった要因

●家族や地域向け小冊子を作成する時間を設けることができなかった。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL